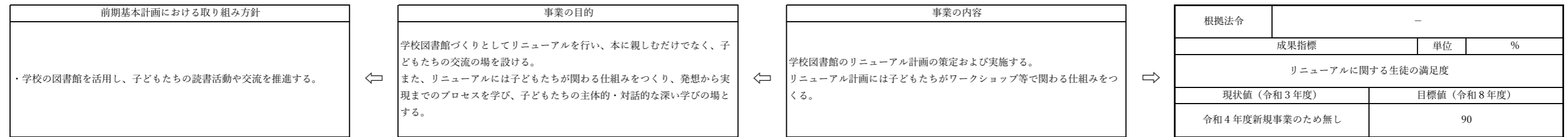


第4次久山町総合計画 前期基本計画対応 実施計画					分野		教育		政策	社会を生き抜く子どもを育てる		施策	③信頼される学校づくり		
実施年度	令和	4	年度	予算科目	会計	款	項	目	新規	事業名	子どもたちの図書館づくり事業		担当課	教育課	
					1	10	1	3					担当者	田実 真一	

1. 事業概要



2. 実施内容（実績）

年度	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			
Plan (計画)	・リニューアル計画の策定を行う。 ・子どもたちの参加するワークショップを開催する。			・久山中学校図書館リニューアル工事（第Ⅱ期）を行う。 ・子どもたちの参加するワークショップの開催をし、子ども達のアイデアを取り入れながら、壁紙の色彩や、家具のデザインの検討を行う。												
Do (実行)	・リニューアル基本計画を策定した。 ・子どもたちの参加するワークショップを開催し、リニューアル方針の検討や全校生徒へ向けたチラシを配布した。 ・「世界一の図書館」と言われるフィンランドの国立図書館とを中継で繋ぎ、現地の方と交流を行った。															
活動実績	・子どもたちの参加するワークショップの開催															
	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	
	回	1	1													
成果指標	リニューアルに関する生徒の満足度			リニューアルに関する生徒の満足度			リニューアルに関する生徒の満足度			リニューアルに関する生徒の満足度			リニューアルに関する生徒の満足度			
	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	単位	目標値	実績値	
	%	90	93.9	%	90		%	90		%	90		%	90		
Check (評価)	A	在校生243名にアンケートを行いました。リニューアルプランについて228名の生徒が「とても良い・良い」（93.9%）という回答があった。多くの生徒が期待感を持って事業に取り組んでいる。														
Action (改善)	図書館のリニューアルを行うだけでなく、生徒の創造性を育み、生徒の考えを具現化することで達成感や自己肯定感を育む事業である。議会でも事業費の拡大を提案されるなど事業の評価は高い。															
事業費	予算		決算		予算		決算		予算		決算		予算		決算	
直接事業費（歳出）	6,050	(千円)	5,652	(千円)	19,828	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		(千円)		(千円)
事業費財源	6,050		5,652		19,828		0		0		0		0		0	
特定	0		0		0											
地方債	0		0		0											
一般	6,050		5,652		19,828											
人件費	3159.2		2688.8		2981.6		0		0		0		0		0	
人員数	0.4		0.4		0.4											
人件費単価	7,898		6,722		7,454		7,768		7,768		7,768		7,768		7,768	
事業費合計	9,209		8,341		22,810		0		0		0		0		0	
町民一人あたりの負担額	996.235	円	902.293	円	2,449.485	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円	0.000	円

令和4年度事務事業評価シート

事業番号	事業名
教育1-3-47	子どもたちの図書館づくり事業

PLAN(計画)⇒DO(実施)については総合計画進捗管理票にて記載

CHECK(評価)

No.1

自己評価	評価者	田実 真一	5	大	↔	小	1	↓	評点	判定
1. そもそも必要な事業か?										
町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。										B
緊急性が高く、即時に実施しなければならない。										
実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。										
町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。										
評価理由 今回、対象となっている久山中学校図書館は、校舎建設当初から改装等行われておらず、改装を要望する声もあつた。また、子ども達の読書環境の改善は町の背景として重要である。										
2. 町が実施する必要があるか?										
町が実施主体となることが法令等により定められている。										B
公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。										
民間等や国・県で実施するよりも効果的である。										
民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。										
評価理由 公共施設は町の財産であり、町が実施する義務があると考える。										
3. 実施内容は適切か?										
①有効性										
久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。										A
事業の手法・活動内容は適切である。										
事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。										
評価理由 総合計画の「社会を生き抜く子どもを育てる」を実現するために有効な事業である										
②効率性										
事業費に見合った成果を上げている。										B
外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。										
実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。										
評価理由 計画策定のコンサルティングを外部委託し、効率性・内容の充実を図っている。										
③公平性・透明性										
受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)										B
事業費に占める一般財源の額は妥当である。										
ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。										
評価理由 ホームページ、広報紙等で公開しており、また、ワークショップには一般町民の参加も行っている										

今後の方向性	見直しの具体的内容
<input checked="" type="checkbox"/> A重点化 <input type="checkbox"/> B現状のまま維持 <input type="checkbox"/> C見直し <input type="checkbox"/> D廃止 <input type="checkbox"/> E事業完了	<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫 <input type="checkbox"/> 事業の効率化 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> その他

自己評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

在校生243名にアンケートを行ったところ、リニューアルプランについて228名の生徒が「とても良い・良い」(93.9%)という回答があつた。多くの生徒が期待感を持って事業に取り組んでおり、「学校の図書館を活用し、子どもたちの読書活動や交流を推進する」という目的に大きく寄与する事業である。
当初は、3年間で2千万円程度の事業規模を想定していたが、住民のニーズを考慮し、重点事業として事業規模を拡充していくべきである。

CHECK(評価)

自己評価を基に基本施策の進捗状況と照らし合わせて評価を行う。

No.2

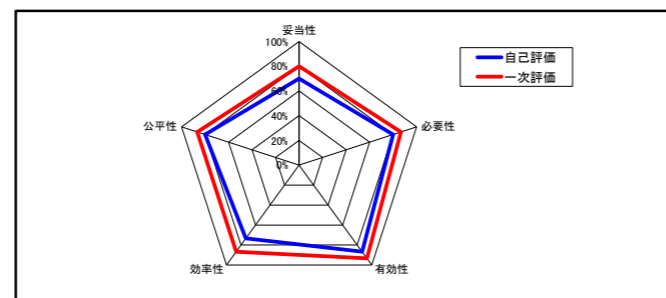
一次評価	評価者	安部 憲一郎	5	大	↔	小	1	↓	評点	判定
1. そもそも必要な事業か?										
町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。										B
緊急性が高く、即時に実施しなければならない。										
実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。										
町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。										
評価理由 今回、対象となっている久山中学校図書館は、校舎建設当初から改装等行われておらず、改装を要望する声もあつた。また、子ども達の読書環境の改善は町の背景として重要である。										
2. 町が実施する必要があるか?										
町が実施主体となることが法令等により定められている。										A
公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。										
民間等や国・県で実施するよりも効果的である。										
民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。										
評価理由 公共施設は町の財産であり、町が実施する義務があると考える。										
3. 実施内容は適切か?										
①有効性										
久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。										A
事業の手法・活動内容は適切である。										
事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。										
評価理由 総合計画の「社会を生き抜く子どもを育てる」を実現するために有効な事業である										
②効率性										
事業費に見合った成果を上げている。										A
外部委託等(指定管理者を含む)による効率化が図られている。										
実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。										
評価理由 計画策定のコンサルティングを外部委託し、効率性・内容の充実を図っている。										
③公平性・透明性										
受益者負担について課題はない。(または、受益者負担を求めることが適当でない。)										A
事業費に占める一般財源の額は妥当である。										
ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。										
評価理由 ホームページ、広報紙等で公開しており、また、ワークショップには一般町民の参加も行っている										

今後の方向性	見直しの具体的内容
<input checked="" type="checkbox"/> A重点化 <input type="checkbox"/> B現状のまま維持 <input type="checkbox"/> C見直し <input type="checkbox"/> D廃止 <input type="checkbox"/> E事業完了	<input type="checkbox"/> 実施方法の工夫 <input type="checkbox"/> 事業の効率化 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> その他

一次評価の理由(今後の方向性等について具体的に)

当事業は、魅力ある学校図書館づくりを行い、本に親しむだけでなく、子どもたちの交流の場として図書館をリニューアルしようというものである。中学校の生徒で図書館とは何かから学び、リニューアル構想の構築、そして実際に工事までを行っていく事業である。プロのデザイナーや地域住民との交流を行い、発想から実現までのプロセスを学ぶ場ともなり、3年間の計画で実施する予定である。
中学校図書館という公共施設のことであり、また子ども達の教育の観点からも大変有用であることから、町が取り組む必要性の高い事業である。

自己評価・一次評価の傾向



ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.3

二次評価	評価者	江上 智恵
<input checked="" type="checkbox"/> A以下の点について、良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。 図書館のリニューアルを行うだけでなく、生徒の創造性を育み、生徒の考えを具現化することで達成感や自己肯定感を育む事業である。議会でも事業費の拡充を提案されるなど事業の評価は高い。		
<input type="checkbox"/> B計画どおり、現状のまま事業を継続する。		
<input type="checkbox"/> C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するための計画の見直しを行う。		
<input type="checkbox"/> D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。		
<input type="checkbox"/> E事業の目的を達成し、事業完了したと判断する。		
<input type="checkbox"/> 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。		

外部評価委員会で評価する。
月 日
開催予定

一次評価をやり直し、
月 日
までに提出すること。
 評価終了
 外部評価へ

ACTION(評価・改善)

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.4

外部評価	
今後の方向性 <input type="checkbox"/> A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) <input type="checkbox"/> B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) <input type="checkbox"/> C見直し <input type="checkbox"/> D廃止 <input type="checkbox"/> E完了	A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの C見直しの具体的内容 <input type="checkbox"/> 実施方法の工夫 <input type="checkbox"/> 事業の効率化 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> その他
評価 <h1 style="font-size: 2em;">B</h1>	外部評価委員の意見 ・本事業は、子供たちのために予算を割いており、町民の方も関心が高く、非常に良い取組であると考える。 ・ハード面の整備が終わった後の、運用面での地域との連携等を考えなければならない。 ・成果指標として、現在ワークショップに参加している生徒に満足度を取っても満足度は高くなる。満足していない6.1%の生徒の居場所についても考えた上で今後の運用の検討が必要。 ・町立図書館との役割分担についても考えていく必要がある。 ・指標としては利用率や図書の出出率等を使ってはどうか。
	経営者会議 経営者評価 町長
今後の方向性 <input type="checkbox"/> A重点化(計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) <input type="checkbox"/> B現状維持(計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める) <input type="checkbox"/> C見直し <input type="checkbox"/> D廃止 <input type="checkbox"/> E完了	A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの C見直しの具体的内容 <input type="checkbox"/> 実施方法の工夫 <input type="checkbox"/> 事業の効率化 <input type="checkbox"/> 受益者負担の適正化 <input type="checkbox"/> 事業縮小 <input type="checkbox"/> その他
評価 <h1 style="font-size: 2em;">A</h1>	経営者会議の評価 本事業は3年間で中学校の図書館をリニューアルする事業であるが、事業の目的としては、誰もが行きたくなる図書館をつくることで本に親しむ機会を醸成すると同時に交流を促すこと、構想から工事まで生徒が関与し、主体性や課題解決能力を育むことである。 より多くの生徒に関わってもらうために3年間で実施しており、計画した事が実現する達成感や成功体験を味わってほしいと考えている。 令和6年度で整備事業は終了する予定であるが、今後の運用については、引き続き生徒たちに関わってもらい、ワークショップ等を行い、ソフト面でも生徒達の主体性や課題解決能力を育んでもらいたい。また、地域の方との定期的な交流の場になるなどの展開を目指していく。
	令和6年度予算要求事項(今後の取り組み) 本事業は令和6年度で3年間の事業の最終年度となり、ハード面の整備が終了する予定である。今後の運用については、地域と連携した運用を基本に計画していく。なお、その際は引き続き中学校の生徒達にワークショップ等で関わってもらい、そこでの意見等を反映する予定である。 令和6年度の事業としては環境整備とともに今後の活用について、例えば中学生による幼児向けの読み聞かせ会を開催するなどのソフト事業をワークショップの中で企画し、図書館リニューアル事業の予算の中で行っていき、成果指標については、ハード整備終了後の図書館利用率や図書の出出率等で設定していくことを検討する。